

# 業務用米等の多収穫・低コスト生産の推進について

～取組2年目がスタート～

県では需要に応じた米生産による所得確保に向け、業務用米等の多収穫・低コスト生産を推進しています。

今年は2年目の取組となります。具体的には大規模法人をモデル経営体として設定し、実践レベルでの多収穫・低コスト生産を支援しています。

今回は、今年度の取組計画を紹介します。

## 1 モデル経営体の概要

モデル経営体は法人を中心に24設置しています。経営体の作付面積の平均は51haで、うち実践支援する多収性品種の割合は約14%です。

表1 モデル経営体の概況

経営体数	うち法人	作付面積(ha)	
		経営全体	うち実践支援する多収性品種
24	22	50.6	7.1

## 2 モデル経営体の取組品種と目標収量

1年目の取組では、多収性品種を選択して取り組みましたが、品種毎に収量差がありました。

目標収量を確保できた経営体は、計画どおりの作業が実践され、ほ場ごとの収量差が少ないことが要因でした。

2年目から品種を切り替えて取り組む経営体は3経営体です。

表2 モデル経営体の取組品種と目標収量

品種名	経営体数 (R1取組)	収量の平均(kg/10a)		
		H30年実績	R1年目標	R2年目標
ちほみのり	1	650	720	720
つきあかり	9	562 (484～636)	647 (570～690)	668 (630～720)
ゆきん子舞	5	619 (561～650)	668 (630～700)	696 (660～720)
あきだわら	8	600 (525～681)	676 (630～720)	690 (660～720)
みずほの輝き	1	—	720	720

※ ( ) 内は、最小値～最大値の幅

## 3 生産コストの目標

目標とする生産コストは、日本再興戦略の農業分野の成果目標となっている資本利子・地代全額算入生産費約9,600円(60kg当たり)としています。

平成30年度実績では、経営体毎のばらつきが大きく、目標を達成できたのは6経営体でした。

達成できた経営体では、多収穫に加え減価償却費低減などの取り組みを併せて実践していました。

表3 モデル経営体での生産コストの目標

60kgあたり生産費平均(円)			達成経営体数		
H30 実績	R1 目標	R2 目標	H30 実績	R1 目標	R2 目標
10,476 (8,051 ~14,107)	9,315 (7,307 ~11,935)	9,030 (6,995 ~9,649)	6	20	24

※ ( ) 内は、最小値～最大値の幅

#### 4 低コスト技術の取組

多収穫と併せて低コスト技術を導入しており、低コスト技術の経営評価を実施しています。

密播育苗は、従来の育苗方法と比較し収量・品質の影響はなく、物財費・労働時間が約3割低減できると高評価でした。

表4 主な低コスト技術に取り組むモデル経営体数

取組 年度	全量 基肥肥料	密播育苗	露地プー ル育苗	水口 流入施肥	ドローン での防除	可変施肥 田植
H30	15	9	4	3	3	2
R1	17	8	2	5	2	2

表5 モデル経営体の密播育苗の評価（9経営体）

項目	評価及び実績
コスト低減効果	物財費、労働時間が約3割低減
収量品質への影響	収量：同等（8事例）、やや減収（1事例）
農業者の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>育苗スペースが2割減少できた</li> <li>新たなハウスを建てなくても規模拡大できる</li> </ul>
留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>移植適期が短く老化苗になりやすいので、綿密な作業計画が必要</li> <li>植付スピードが速いと、欠株が目立つことがある</li> </ul>

#### 5 今後の取組計画

- (1) 現地実践指導
  - 普及指導センターと革新支援担当が連携し、モデル経営体を支援
- (2) 情報提供
  - ときいろネットを活用し年間を通じて情報提供（動画も活用）
- (3) 取組状況の取りまとめ
  - 生育・収量・品質実績、生産コスト、低コスト技術の経営評価
- (4) 取組結果のフィードバック
  - ・担当者会議での情報共有(11月)
  - ・モデル経営体への取組結果のフィードバック

★今後も多収穫・低コスト生産の推進に関する情報をタイムリーに提供します。  
平成30年の取組も掲載しておりますので、興味のある方は併せてご覧ください。

【経営普及課 農業革新支援担当 遠山哲史】